



2026年1月12日発行

スポーツ史学会事務局

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

龍谷大学 佐々木研究室 内

TEL : 075-585-6971

E-mail : sasaki@let.ryukoku.ac.jp

<http://sportshistory.sakura.ne.jp/>

I. 事務局報告

1. 会況報告(2025年11月30日現在)

1) 会員総数 221 名

(正会員 204 名、学生会員 7 名)

賛助会員 1 機関

2) 会費納入状況

2025 年度納入者数 153 名

2024 年度納入者数 25 名

2023 年度納入者数 7 名

2022 年度納入者数 3 名

3) 2025 年度会費総収入総額: 1,476,000 円

2. 会費納入のお願い

今年度会費(正会員 8,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員一口 10,000 円以上)の納入はお済みでしょうか。未納の会員は下記まで納付をお願いいたします。

会則第 9 条により、3 年を越えて会費を未納の場合には、会員資格を喪失することになります。また、2 年間会費未納の場合には一部会員サービスを停止させていただきます。なお、会費納入状況等についてのご質問がある場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

郵便振替口座 : 00940-7-282457

加入者名 : スポーツ史学会

3. スポーツ史学会第 39 回大会の開催

本年度の学会大会は12月6日(土)～12月7日(日)に、札幌大学において開催されました(瀧元誠樹会員)。

第1日目は、3題の一般研究発表がありました。続いてシンポジウム『言葉以前の歴史』を考える——ことばとからだで紡ぐ武術のわざ』が開催されました。瀧元誠樹会員の趣旨説明の後、今福龍太氏(文化人類学者・吟遊詩人/東京外国語大学名誉教授)から「言葉以前、身体、仮面——〈ある〉から〈ない〉へ、〈差異〉から〈たがへ〉へ」というテーマで、続いて伊与久大吾氏(太和躰術協会会長)から「伝える・伝わる、心と身体——伝統的身体遣いと、その教伝について」というテーマで講演がありました。お二方のお話と質疑応答を含めて、「言葉と身体性」「身体の記憶」「知の伝達・継承」といった観点からの興味深い議論が交わされました。

第2日目は、16題の一般研究発表がありました。1日目同様にフロアからの質疑応答を含めて活発な議論が展開されました。終了後、総会が開催されました。

4. 令和7(2025)年度総会について

令和7年度総会が次のとおり開催されました。

日時: 12月7日(日) 14:40～15:40

場所: 札幌大学 8303教室

学会賞表彰

総会の議題に先立ち、スポーツ史学会学会賞の報告が行われました。

令和7年度学会賞

中村哲也会員(高知大学)

『日本野球と体罰:歴史からの検証』岩波書店、
2023年10月発行

瀧元誠樹学会賞選考委員長より、選考理由について報告があり、松浪稔会長より中村哲也会員へ賞状と記念品(トロフィー)が授与されました。その後、中村会員より受賞に際してご挨拶をいただきました。

なお、奨励賞は該当なしでした。

1. 会長挨拶

松浪稔会長より、総会開催にあたって挨拶がありました。

2. 議長選出

崎田嘉寛会員が議長に選出されました。

3. 報告事項

1) 会況報告

事務局より、2025年9月6日現在の会況について報告されました。

2) 令和7(2025)年度 事業・会計中間報告

事務局より、配布資料に基づいて、2025年8月31日現在の事業・会計中間報告がありました。

3) 編集委員会報告

編集委員長より、『スポーツ史研究』の編集状況、会員活動報告について報告がありました。

4) 会報『ひすぼ』の発行状況および「原稿投稿要領」の改訂について

企画委員長より122号まで発行済み、また123号は年度内に発行する予定であることが報告され、あわせて123号への投稿呼びかけがありました。また、121号から「ひすぼ」がメール配信されていることにもなって「会報『ひすぼ』原稿投稿要領」と「会報『ひすぼ』の企画・刊行の手順に関する申し合わせ」を改訂したことが報告されました。

5) 40周年記念事業企画委員会報告

松浪会長から配布資料に基づき、40周年記念事業企画委員会の報告がありました。記念事業の目的は、「本事業の遂行を通じて、多くの会員の参画を図り、ま

た将来の展望を探りながら、学会の再活性化の機会とする。あわせて学術的な成果を社会に還元し、学会の対外プレゼンスの向上に資する。」とされ、事業として「スポーツ史学会第40回記念大会の開催」「スポーツ100モノ語り(仮)の作成」「全国スポーツ博物館・史跡等のマップの作成」「将来ビジョン」「若手会員が考える学会のこれから」(仮)の策定」「スポーツ史学会沿革の拡充」を実施する予定であることが説明されました。また、あわせて運営組織の構成についても説明されました。

6) 次期学会大会について

企画委員長より、第40回記念大会は大阪体育大学(中房敏朗会員)での開催(2026年12月5日、6日)に決定したことが報告され、開催概要が説明されました。

7) 将来構想委員会の設置について

松浪会長から、理事会の政策を継続的なものにし、今後の学会運営のあり方を中期的な視野をもって検討するため、「学会の目的を達成する上で必要な将来構想とその戦略について検討すること」を目的とした将来構想委員会を設置することが報告されました。

4. 審議事項

1) 令和6(2024)年度 事業・決算報告について

事務局より、配付資料に基づき、事業・決算報告について原案が示された。決算報告については尾川翔大監事より監査結果が報告されたが、数字に一部誤りが見つかったため、これを修正し、帳票類には問題がないことを確認の上、承認されました。なお、修正箇所については、総会後も再度確認することとされました。この修正が影響を及ぼす箇所(報告事項:2025年度会計中間報告、審議事項:2026年度予算案含む)を修正することも確認されました。

2) 会員情報管理サービスの導入について

事務局より配付資料に基づいて、事務局業務負担の軽減と学会サービスの質向上を目的として、株式会社アトラスの会員情報管理システム SMOOSY の導入について説明がなされました。SMOOSY の機能として、会員情報の管理および会費納入、領収書の発行、メンバーリストからの確実な連絡、ホームページの運用等があること、導入費用については各種会議のオンライン化や「学会だより」「会報ひすぼ」のメール配信等に

よって削減された経費分でまかなえることなどが説明されました。

2026年5月開始を予定していますが、ホームページの移行など相当の作業が予想されるため、6月あたりをめどにシステムへの完全な移行を目指すことも確認されました。審議の結果、原案どおり承認されました。

3) 令和8(2026)年度 事業・予算案について

事務局より、令和8(2026)年度の事業計画案、予算書案、学会活動準備金収支予算書案について、2024年度決算報告における修正が影響を及ぼす箇所(収入の部:前年度繰越金(暫定的に2024年度決算額を記入)を修正することを含め、資料に基づいて説明されました。審議の結果、原案どおり承認されました。

5. 閉会の挨拶

松浪稔会長より、総会の閉会にあたって挨拶がありました。

5. 会議の開催について

以下の会議が開催されました。

【理事会】

第176回 2025年12月7日

【企画委員会】

随時メールにて連絡

【編集委員会】

随時メールにて連絡

6. 日本学術会議刊行物

月刊『学術の動向』は、2025年1月をもって休刊となっています。詳しくは下記をご参照ください。

<https://jssf86.org/works1.html>

7. スポーツ史学会 30周年記念誌の献本

2017年度にスポーツ史学会30周年記念誌『スポーツ史研究の未来』が完成し、会員の皆様にお届けしました。

事務局に若干の余部がございます。ご希望の会員にお分けしますので、事務局までご連絡ください。送料は事務局で負担いたします。

8. スポーツ史学会第40回記念大会について

第40回大会は、以下のとおり開催することが決定しました。

日程: 2026年12月5日(土)~12月6日(日)

会場: 大阪体育大学

第40回記念大会担当: 中房敏朗 会員

詳しくは学会ホームページをご覧ください。

<https://sportshistory.sakura.ne.jp/taikai/next.html>

9. メーリングリスト作成および会員情報の集約について

現在、スポーツ史学会ではメーリングリスト作成及び会員情報の集約を行っています。今後はほぼすべての情報をメーリングリストを用いて発信することとなります。未登録の方は、下記のいずれかの方法で会員情報をご登録下さい。

1) QRコードを読み取り Google Forms に入力



2) スポーツ史学会 HP から登録フォーム (Google Forms) に入力

<https://forms.gle/GQtf2xcG3bEi5srs5>

II. 理事会報告

第176回理事会

第176回理事会が次の通り開催されました。

日時: 12月7日(土) 12時00分~13時40分

場所: 札幌大学 8501 教室

出席者: 松浪稔(会長)、中房敏朗(理事長)、池田恵子、神田俊平、黒須朱莉、高嶋航、瀧元誠樹、新名佐知子、佐々木浩雄、(事務局)

欠席者: 松本彰之

議長: 中房敏朗

1. 議事録確認

1) 第175回理事会議事録の承認

2. メール審議

1) 第175回理事会議事録の承認について

- 2) 新規入会について
- 3) 新規入会について
- 4) 新規入会について
- 5) 会報「ひすぼ」123号特集テーマについて
- 6) 会員の退会について
- 7) 会員の退会について
- 8) 会員の退会について
- 9) 2024年度事業会計・収支決算報告(案)、2025年度事業会計・学会活動準備金中間報告(案)、2026年度事業・予算(案)について(第175回理事会からの継続審議)
- 10) 新規入会について
- 11) 新規入会について

3. 報告事項

- 1) 会況報告(事務局)
- 2) 「スポーツ史研究」第39号の編集進捗状況について(編集委員会)
- 3) 「ひすぼ」第123号の進捗状況について(企画委員会)
- 4) スポーツ史学会 第40回記念大会について(記念事業企画委員会)
- 5) その他

4. 審議事項

- 1) 2025年度総会の進行について(事務局)
- 2) 年間計画について(理事長)
- 3) 学会設立40周年記念事業について(40周年記念事業企画委員会)
- 4) 将来構想委員会の設置について
- 5) 大会に関する規程の改正および大会の運営に関する申し合わせについて
- 6) その他

5. その他

- 1) 企画委員会の委員の増員について
- 2) 会長経験者等の資格喪失を防ぐための方策について
- 3) スポーツ史研究の即時公開について
- 4) スポーツ史研究の印刷業者について
- 5) 役員選挙のオンライン化について

III. 編集委員会報告

1. 『スポーツ史研究』への投稿

現在、2026年3月発行予定の第39号の編集作業を進めております。『スポーツ史研究』への投稿は随時受け付けております。投稿規程ならびに執筆要領は『スポーツ史研究』の見開き及び学会ホームページに掲載されていますので、投稿前に必ずご確認ください。

<https://sportshistory.sakura.ne.jp/publication/history.html>

投稿先は、下記のとおりです。

〒060-0811

北海道札幌市北区北11条西7丁目

北海道大学大学院 教育学研究院 池田研究室

スポーツ史研究編集委員会 宛

kikedai@edu.hokudai.ac.jp

IV. 会報『ひすぼ』報告

1. 『ひすぼ』特集テーマの募集について

現在、第125号以降の特集テーマを募集していますので、事務局までお寄せください。皆様からの積極的なご提案をお待ちしております。

V. 会員の動向

1. 入会・退会・種別変更

<入会>

次の方の入会が承認されました。

正会員

苫米地里香氏(札幌国際大学) 9月30日承認

濱田隆史氏(元甲南大学) 12月17日承認

学生会員

木村直登氏(神戸大学大学院) 9月21日承認

封穎博氏(早稲田大学大学院) 11月19日承認

宮下悠暉氏(北海道大学教育学院) 12月15日承認

2. 所属変更について

所属、連絡先住所等に変更があった場合には、事務局までご一報ください。所属変更、連絡先の変更がないまま住所不明になる会員もいらっしゃいます。

なお、会員の皆様への諸連絡を円滑にするために、メールアドレスに変更があった方は、必ず事務局までお知らせ下さい。

3. 会員資格の喪失と退会について

スポーツ史学会会則第9条に則り、3年間会費未納の方は、会員資格を喪失します。

また、会員が本学会を退会する際には、会員であった期間の会費を納入していただいたからの退会承認となります。

大学院を修了し、研究活動を継続せず退会する場合は、退会手続(事務局へご連絡ください)を忘れずにしてください。退会手続が遅れると、次年度の会費が発生します。学生会員の推薦者となった会員の先生も、この点にご留意いただき、ご指導をお願いいたします。特に留学生の帰国の際に、会員継続の意思がない場合は退会手続を忘れずにお願いいたします。

VI. その他

1. 研究助成の公募について

2026年度研究助成の公募について、応募要領をホームページに掲載しています。ご覧ください。

<https://sportshistory.sakura.ne.jp/gakkai/grant.html>

(2026年1月末日締切)

2. 学会運営支援システムの導入について

前号でもお知らせしたとおり、理事会では、事務局業務の負担軽減と会員の利便性向上の観点より、学会運営に関する一部業務の外部委託(学会運営支援システムの導入)について協議を続けてきました。時代の流れに対応した即時的な会員サービスの提供と安定的な学会運営体制の構築という観点から、下記の会員管理サービスを2026年4月から導入することを2025年12月の総会に提案し、承認を得ました。

2026年度よりシステムを導入することとなりますが、会員サービスの低下や停滞が起これぬよう、円滑な移行を目指します。4月以降、メールおよび郵送にてご案内を差し上げる予定です。会員のみなさまのご協力をお願いいたします。

導入システムの概要は下記をご確認ください。

<システム概要>

・委託先:株式会社アトラス

・システム:会員管理サービスSMOOSY(アドバンスプラン:月額3万円+カード決済基本料・手数料)

・選定理由:同種のサービスの中では、コスト的にリーズナブルであり、他学会での実績(200以上の学会)も有しているため。また、会員・事務局の双方に使いやすく、プランに含まれるホームページの更新も容易であるため。費用については、年間で44万円程度と試算しており、郵送費やHP運営費、会議費等が削減できているため十分に捻出できる。

・主な機能

①会員情報の管理:入退会の申し込み、会員情報の変更、会費納入、領収書の発行を会員の手で行うことができる。また、メールリストによる確実な連絡(会費未納の連絡など)により、郵送費の削減にもつながる。

②会費の納入(クレジットカード決済に対応)

③ホームページの設定・管理(サービスに含まれる。事務局による更新が可能。会員専用ページも設定可。)

※詳しくはアトラス社HP(<https://www.atlas.jp/>)からサービス「SMOOSY」についてご覧ください。

3. 会報「ひすぽ」、「学会だより」のデジタル配信について

2025年度からは会報「ひすぽ」、「学会だより」をデジタル配信しております(2024年度(第38回)総会で報告済み)。「学会だより」は、前号からメールで会員のみなさまへ配信しております。会報「ひすぽ」も第121号よりメール配信しています。これにとめない、121号以降の「ひすぽ」はホームページでの公開を予定しております。また、バックナンバーについてもアーカイブ化し、公開の方向で議論を進めて参ります。

4. 学会賞の推薦について

学会賞および奨励賞の推薦についてお知らせします。今年度からは、事務局(佐々木)宛にメールにて推薦書をお送りいただきたく存じます(2026年2月末日まで)。学会賞規程および書式についてはホームページをご参照ください。

<https://sportshistory.sakura.ne.jp/gakkai/award.html>

5. 会員の研究活動報告について

今年度からは、『スポーツ史研究』巻末に掲載しております会員活動報告をメールで事務局(佐々木)宛へお寄せいただきたく存じます。1 月末までにお送りください。

6. 訃報

初代の事務局(1986-89)、第二代の会長(1989-1992)を務められるなど、創設時から本学会に多大な貢献をされました渡邊融先生が、2025年12月28日に逝去されました。生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。